

D-11 児童の生活構造の時代的変遷に関する研究〔オ2報〕(その2) 遊びと  
テレビ視聴 大妻女大家政 森上史朗 石井とめ子 馬場吉三

本研究の目的、方法等は(その1.)に同じであり、ここでは過疎地における幼児の遊びとテレビ視聴の実態、及び都市幼児との比較結果についてのみ述べる。

(1) 遊びの種類と玩具の選択傾向 屋内遊びは絵本、構成遊び、テレビの模倣、ごっこ遊び、工作、挿画・描字の順に多く、内容的にもマスコミの影響がみられる、性差が大きいなどの点において都市幼児と類似の傾向を示している。使用玩具も構成玩具、乗物、人形などが多いのは都市の場合と同じであるが、<sup>1/4</sup>全般的に使用される玩具の数は少く、内容的にも構成玩具はほとんどが積木に限られるなど、バラエティーにとんではいない。一方、屋外遊びは乗物、砂・泥んこ、固定遊具遊びなどが多いのは都市の場合と同様である。しかし、都市幼児の乗物遊びが三輪車や自動車であったのに対して、今回のそれは自転車ほとんどである。また、かくれんぼ、鬼ごっこ、チャンバラなどの伝承的な遊びが比較的多いのも今回の調査の特徴といえる。屋外遊びには乗物及び自然物、日用品を除いて玩具はほとんど使用されていない。

(2) テレビ視聴 今回の調査では、平日1日3時間以上視聴する heavy viewer が58.8%と都市幼児を上回っているが、これは調査時期が冬期であったことに原因しているかも知れない。子どもの番組を親子で一緒にみる家庭99.0%、家庭全体の人気番組のある家庭68.0%など、都市の場合と大差ないが、視聴する番組の内容にはかなりの相違が認められた。また、子ども専用のテレビを所有する家庭が82%存在している。